

雅楽だより

《目次》

- 管絃を見る 宮内庁式部職楽部首席楽長 東儀博昭 1
- 『日本音楽史料叢刊1』 上野学園 櫻井利佳 1
- 雅楽の普及に努める武蔵野楽器 5
- 情報欄 6

第46号
発行

2016(平成28)年7月
雅楽協議会

管絃を見る

宮内庁式部職楽部首席楽長

東儀 博昭

(5月28日 国立劇場雅楽公演)

「管絃」プログラムより)

今回は国立劇場の企画にお応えし、宮内庁の楽部では常設されている高欄は舞台に配置せず、各々の楽器を皆様に良く御覧頂ける様な管絃の公演となっています。

管絃には「管楽器、絃楽器、打楽器」を合わせて、八種類の楽器が登場します。

主要三管は各自持つて出て参りますが、琵琶と楽箏は出番ギリギリまで、楽屋で音程の調絃、音合わせに努めているので、始まる直前に舞台上に運ばれて来ます。調律・調整等の手間を掛けない打楽器は、予め舞台の所定の位置に設置されて開演を待っています。

全ての楽器の配置が終った時に一番目を引くのは、最前列中央に座す「楽太鼓」ではないでしょうか。これにつきましても少しお話をしてみようかと思えます。

外観は、遠目には「蓮華」の花びらの様に見えませんが、頭には金色に輝く火焔飾りが、黒漆塗り金泥縁取りされた輪台の上に乗っけて、輪台の両側には枡を納める鍔金具に、球状に膨らんだ部分に皮を巻いた枡がセットされています。

この枡の「照る照る坊主」

に似た頭を包む髷と黒漆塗りの軸の柄の下部には菊紋の飾り金具が付いていて木材の素材が全て覆われています。

枡の真下には紫の紐が「揚巻結び」にして左右に垂れ下げてあり、先端の房は舞台上に着きそうに見えます。

(2ページへ続く)

『日本音楽史料叢刊1
陽明文庫蔵 舞絵(舞楽散楽図)・法隆寺旧蔵 揩鼓』刊行!

櫻井利佳

(上野学園大学日本音楽史研究所研究員)

ぐために購入するといったことを続け、今やコレクション自体が日本音楽通史にほぼ匹敵する、あるいは構成しうる内容となり、収集した古典籍や複写資料は数万点に及び、日本延いては世界でも唯一無二の日本音楽史研究機関となっている。

(3ページ上段へ続く)



楽太鼓の鼓面

(1ページ2段目途中より)

輪台は四本足の架足(組み足)で支えられています。柱の上部左右と下部の四方には雲形の繫ぎを各一つずつ配しています。楽太鼓の景観(シルエット)は以上の説明でご理解頂けたかと思えます。

次に輪台の中の美術品とも芸術品とも見える本体の太鼓についてお話しします。

太鼓は輪台内側上方の「鈎」(曲釘)に掛けられて吊り下げられ、胴回りには「唐花・唐草」の絵と雷紋が一周描かれています。

そして、胴の下の下部両脇には小鏝が施され、その鏝金具を通した前記の紫色の飾り紐によって円い輪台の真ん中に据えられ、宙に浮いているかの様に見える佇まいとなっています。

一般的な太鼓の鼓面には「二つ巴」や「三つ巴」の紋様が見られますが、「楽太鼓」に関しては、裏表の両面全体に、同様の極彩色の絵が描かれています。

前面から見ますと、鼓面の中央真ん中に、菱形を丸く囲ったように見える「七宝花輪違」の紋印があります。七宝とは「金・銀・瑠璃・真珠(又は玻璃)・珊瑚・瑪瑙(又は玫瑰)・瑪瑙」を言い、またこの輪紋は吉祥紋で、無限の子孫繁栄の意味を持つと言われています。さてその輪を取り巻いている獅子図については、諸説ありますので、いくつかの解釈を述べたいと思います。

第一。鼓面の唐獅子は獵虎の様な海獣であるという説。

三匹の獣が水中深く海底もしくは湖底に天

から落ちてきた「羽衣」を藻か海藻と思われ、戯れている図と想像すると、金色の基色は「金沙布地」(極楽國土にある「七宝池」の池の底には黄金の砂が一面に見られるという)を表現していると考えられます。

水中ですので、獅子の身体に確認できる白い斑紋は水の中で遊び回って泳いでいる折に附着した気泡で、活動的な仕草を描いたものと見ると、鼓の縁の所に内側に向かって寄せ返す青と白の波模様は納得出来そうにも思えてきます。

第二。三匹は天に住む聖獣であるという説。

太陽の力を宿すと言われる獅子が、天空に漂う「天衣」を追い掛け廻っている様子と捉えらるると、獣の身体の白い斑紋は恐らく「十種神宝」の一つである「生玉」に違いないでしょう。眩しく黄金色に輝く天空で三匹が飛び回る姿が湖面に映って見える描写かと思われ

第三。母胎の中の胎児との説。

母親のお腹の中は胎児にとつて宮殿(子宮)であり、十月十日の間、休むことなく絶えず聞いていた母体の心臓の鼓動に歓び、元気に(羊水の中を)動いていることを表現している、波が内側に返しているのは、生き活きと生長している様子であり、赤い帯状のもの(羽衣・天衣)は母体と胎児を繋ぐ血管等であると解釈して、以上の水中・天空・胎児説を合わせて「水天宮」説として纏めてみました。

それから何故太鼓を吊ったのでしょうか。しっかりと固定した台に乗せて打つことを避けた理由を考えると、これもまた諸説あると

思います。鼓面に描かれた波をザブンと前後させて、水面の様にゆらす効果を表している

と捉えらるると「魂振の儀」が思い浮かんで来ます。「魂振の儀」は、宇摩志麻治命が十種神宝を用いて神武天皇と皇后の心身安鎮を奉

じたことに関係すると言います。十種神宝とは饒速日命が天降りする際に天神御祖から授けられたとされるもので『先代旧事本紀』に

「一三三四五六七八九十 布留部 由良由良止 布留部」と唱えながら十種神宝を振り動かすと、死者さえ生き返る呪力があるとされ

ています。なお「由良由良」とは玉の鳴り響く音だそうです。

確かに綺麗で美しい太鼓の面を打つ槲は一枚の皮で覆われ、直接に荒材は鼓面に触れ

せんし、優雅に打った後に雄槲(右手)と雌槲(左手)を添わせ、鼓面の下部から軽く上に這

わせて振動を止める所作を実践しておられますと、信仰に培われた何かを想う次第です。

また、鼓面の中で目を見開き天衣を啜ってこちらを睨む獅子を見てみると、太鼓の奏法である加拍子を「努々、違々事無かれ」と論じた図(描写)と捉えても面白いと思えます。

ところで、輪台が太鼓を吊って支えていると説明しましたが輪台といって思い浮かぶのは雅楽の「青海波」です。装束や舞

台にも目を向けると更に先人達のエスプリを感ずることが出来るので、また舞楽公演の機会にお話したいと思えます。

この様に、構造・装飾・演奏法について諸説、私的考察を試みますと、千数百年の歴史の中で集約されてきた先達の多様な要素(文化・知恵・儀礼・技術・雅楽という音楽への祈りや願い等)を楽器に具現化していることととも出来るように思われます。

楽太鼓一つ取っても装飾として美しいだけでなく、その裏に秘められた歴史を紐解くのも雅楽の演奏の妙趣・妙所に思えます。

鑑賞の手引きの一つとして皆様と共有出来ますことを願いつつ、本公演をお楽しみ頂けると幸いに存じます。



打球楽を舞う東儀博昭宮内庁楽部首席楽長 写真 林陽一

(1ページ下段より)

収集活動と平行して来たのは収集史料の研究であり、両者は当所の車の両輪である。筆者がその一端に携わるようになって痛感するのは、音楽史学には基礎研究がまだまだ少ないという現状であり、研究人口に比して当所の閲覧利用者も少ないということである。日々宝の山に入りながら手を空しくして帰る張本人が言うのも実におこがましいが、大変歯がゆい。音楽史研究は、言うまでもなく良質な史料の上に成り立つものである。しかし当所の所蔵史料や史料研究の成果が十分に研究者に知られていないのは、我々所員の責任に他ならない。

そこで、ほぼ半世紀にわたる研究の蓄積とそこから精選した音楽史上の重要史料を『日本音楽史料叢刊』として世に出すことになった。幸い高久国際奨学財団の助成を得て実現した企画である。当所の取り組みとしては遅すぎる感もあるが、そもそも一私立音楽大学の附置研究所としては、当所の活動規模自体破格の構想であった。創設当初より、国内外での史料展覧を続け、一九九五年からは研究年報『日本音楽史研究』の発行を続けて来たが、ここ五年の間にさらに活動が伸展した。二〇一二年に年一回の「日本音楽史研究会」を立ち上げ、東洋音楽史研究国際シンポジウムを二〇一四年三月に開催した今、漸く刊行の機が熟したと思っている。

○『日本音楽史料叢刊』シリーズ第1冊創刊
さて、創刊第一冊は『日本音楽史料叢刊1

陽明文庫蔵 舞絵〔舞楽散楽図〕・法隆寺旧蔵 拵鼓」と題して、思文閣出版より刊行された(二〇一六年三月)。

図版篇に全頁カラーで掲載した『舞楽散楽図』は、絵画史料として貴重であり、雅楽研究者なら誰もが知る著名なものでありながら善本は全く利用されず、これまでに言及される際は皆、錯簡本が利用されてきた。その弊害については本書をお読み頂ければお分かり頂けるであろう。兎に角誤りを正すためにもこれを早急に世に送り出し、善本を誰もが当たり前に使用できるようにとの思いから本企画がスタートした。テーマを鑑み中国語圏の研究者にも周知すべく、中国語訳、そして英文要旨を付した。A4判、カラー図版44頁を含んで二七〇〇円(税別)と、普通ではあり得ない価格設定にしたのも、この絵画史料の普及を切に願う思いからである。

【参考図版】

周文矩筆『唐代宮妓合楽図』シカゴ美術館蔵／『墨絵弾弓』正倉院蔵／『舞楽図譜』林家所蔵／『舞楽図巻(心永舞楽図)』サンフランシスコ・アジア美術館蔵／『舞楽図巻(舞楽図粉本)』東京国立博物館蔵／『舞楽図屏風下絵(右幅)』小田原文化財団蔵(左幅) 名古屋市博物館蔵／『舞楽図(北野社根本障子)』北野天満宮蔵／拵鼓 上野学園大学日本音楽史研究所蔵／敦煌莫高窟壁画／来迎図等

○目次

【図版篇】(カラー) 陽明文庫蔵 舞絵〔舞楽散楽図〕

【論考篇】・『舞楽散楽図』(福島和夫・上野学園大学日本音楽史研究所所長) 陽明文庫蔵本書誌および内容・構成／本体四部分および錯簡について／後世付加部分／諸本／研究史／成立／『舞楽散楽図』伝存諸本目録／『舞楽散楽図』諸本系統図

・日本中世の図譜的な舞楽図―『舞楽散楽図』と宗達屏風の狭間―(藤原重雄・東京大学准教授) 図譜的な絵巻／相互の関係と後世への

影響／舞楽の屏風・障子／収載曲一覧

・法隆寺旧蔵「拵鼓」―西域伝来の楽器拵鼓に関する総合的研究―(福島和夫) 西域および中国における拵鼓とその史料／日本における拵鼓とその史料／康治三年法隆寺五師勝賢墨銘 拵鼓／音楽史における拵鼓

・英文目次・要旨(訳 スティーヴン・G・ネルソン)

・中文要旨・論考翻訳『舞楽散楽図』／法隆寺旧蔵 拵鼓(訳 劉瀟雅)

○『舞楽散楽図』福島和夫

この絵巻は従来美術品としての評価が全くされて来なかった。善本が知られなかったというのがその要因であると、著者は言う。一方の音楽分野では、唐代以来の器楽演奏、舞楽、散楽の古態を遺す例として、本絵巻はしばしば引用されている。伝来当時の楽を彷彿とさせる絵画史料として貴重なのは事実だが、それ故に弊害も生じた。

これまで陽明文庫蔵本が世に出なかつたために、その末流の影印が日本や中国で流布した。だが調査の結果、流布本は、舞銘の欠如等の細かい差異以外にも、重大な錯簡によつて全体の構成を崩していること、また「信西古楽図」という誤称の原因となつた増補部分の書き入れ「以少納言入道本信西



『日本音楽史料叢刊1 陽明文庫蔵 舞絵〔舞楽散楽図〕・法隆寺旧蔵 拵鼓』表紙

追加人之列記」も末流本では「列」が「別」になる等、軽視できない問題が明らかとなった。

本書が底本とした宝徳元(一四四九)年奥書の写本は、現存を確認した二十数本全ての祖本である。筆遣いの繊細さ、質感、表情や動きの多彩さ、空間表現等のあらゆる面において群を抜いており、現在錯簡のない唯一の本でもある。そういう訳で、今後は善本を広く活用して頂ける様、名和修陽明文庫長の承諾を得て、影印の刊行に踏み切った。

本論で特に強調されたことの一つ、名称の問題をここで紹介しよう。『日本古典全集』刊行時には「信西古楽図」と名付けられた。以来あたかも少納言入道信西が製作に関わったかのような言述が後を絶たないが、実は信西とこの作品とは全く無関係である。全集刊行の販売戦略だったのかも知れないが、学術研究にあらぬ誤解を招く結果となった。また

「舞絵」とは、陽明文庫本が収納された木箱の蓋に墨書された銘である。しかし右掲の目次の通り、図は座奏楽人図、舞楽図、散楽図と後世付加部分とから成っているから、「舞絵」のみでは絵巻の性格を表し得ない。この問題を除くために熟考し、本書では『舞楽散楽図』とした。

音楽史料として図像を対象とした研究はこれまでにも存在しているが、初めて善本が公開されたことを機に、様々な角度からの議論の活性化が期待される。例えば、収録した福島和夫の論では、原本唐代成立説を改めて提示しているが、この是非についても世に問う

ものである。

○「日本中世の図譜的な舞楽図―舞楽散楽図と宗達屏風の狭間―」藤原重雄

これまで、中世の舞楽図は依屋宗達「舞楽図屏風(醍醐寺蔵) 前史として論じられて来た。中世の舞楽図のうち①陽明文庫蔵「舞楽散楽図」は無背景の「図譜的な絵巻」に分類される。後に「図譜的な絵巻」から派生して大画面の障子・屏風が作成され、近世の「舞楽図屏風」に連なるという。著者である藤原氏は「図譜的な絵巻」として他に、②林家蔵「舞楽図譜」③サンフランシスコ・アジア美術館蔵「舞楽図巻(心永舞楽図)」安倍季英筆④東京国立博物館蔵模本「舞楽図巻」(「舞楽図粉本」伝土佐光信筆)を紹介し、陽明文庫蔵「舞楽散楽図」との関係を検討する。

右の②と③とは曲目や図様が似ており、各共通の祖本からの抄出である。対して④は、②③と曲目は共通するものの、図様の点では共通の祖本から描かれたものは少ない。しかし、②④いずれも土佐派「舞楽図屏風」の祖本的面影を伝えており、そのイメージソースであったといえる。対して①は②④とは似ておらず、近世の舞楽図屏風に与えた影響も少ない。それより降って十八世紀・江戸中期以降に、故実家たちの注目を集める様になったのが①陽明文庫蔵「舞楽散楽図」なのである。

さらに大画面の舞楽図について、記録上に見えるものや、「舞楽図屏風下絵」(小田原文化財団蔵・名古屋博物館蔵)、北野天満宮

蔵「舞楽図(北野社根本障子)」等を検討し、

②④との図様の類似性や近世の網羅的な舞楽図屏風との親近性を指摘する。ただしここでも①との関係性は希薄である。(以上要約)

本論の執筆者藤原重雄氏は、東京大学准教授で日本中世史、特に文化史、絵画史料論を専門とされ、絵画を歴史の史料として研究する立場から多くの業績がある。本書を機に今後、音楽側の研究のみならず、こうした分野からの研究が活発化する事が期待される。

○「法隆寺旧蔵「羯鼓」―西域伝来の楽器羯鼓に関する総合的研究―」福島和夫

本稿は、現在上野学園大学日本音楽史研究所が所蔵する世界で唯一の現存楽器「羯鼓」(答臘鼓、摺鼓とも)についての研究である。羯鼓を主たる対象とした研究は、林謙三によるもの等ごく僅かである。本論の冒頭には次のようにある。

二〇〇一年六月八日、上野校地一号館七階にあつた日本音楽史研究所(当時は日本音楽資料室)に、楽器羯鼓の鼓胴一口が持ち込まれた。

口径・筒長ともに各25cmほどのまっ黒な直円筒。底が抜けた秫桶の如き物体を前にして、しばし絶句した。外側の黒漆は艶を失い、剥落や無数の断文や、乳白色の微か汚れか紋様だかが拡がり、処々には朱も見える。鼓胴内側に墨銘があり、敬白救世利生宝前/右為結縁法隆寺旧楽器/五師大衆(二一四四) /康治三年二月廿二日/五師勝賢大法師

等の文字が見える。

この一見得体の知れない楽器が二年后に当所の所蔵となつて羯鼓の調査がスタートし、十三年を経て漸く本書の刊行に到った。

現行雅楽の打物は、羯鼓(右方は三鼓)、太鼓、鉦鼓だが、奈良時代には腰鼓や摺鼓、雞婁鼓、篋等の胡楽(西域楽)系鼓類も渡来していた。しかし大陸では、唐滅亡の少し前から胡楽系鼓類が衰微し、羯鼓も十世紀頃には廃れて、形状すらも不明となった。

「答臘鼓制 広於羯鼓而短 以指指之 其声甚震 俗謂之羯鼓」これは陳(六世紀後半)の僧智匠撰『古今樂録』「鼓制」項の記述である。同書「羯鼓」項に記す「羯鼓正如漆桶」に対応するもので、「漆桶の如き(長円筒の)羯鼓胴に比し、羯鼓は羯鼓胴よりも(口径が)広く、(筒長は)短い」と記す。『古今樂録』は早くに佚したが、佚文が唐代の『通典』によつて流布した。だがこの時「於」一字を欠落し、悪いことにこの欠字部分に後世『文獻通考』が「如」を誤つて補入してしまったのである。このたつた一字の誤りで、対照的な形状であるべき羯鼓と羯鼓とを「同一形態」とする文章に変わつてしまひ、後の昏迷の引き金となった。宋代の

陳暘著『樂書』「答臘鼓上中下三図」は、既に皆羯鼓と同形に描かれており、その影響は今日にまで及んでいる。



羯鼓 横正面

一方日本では、宝亀十一(七八〇)年『西
大寺資財流記帳』以降、諸寺資財帳に羯鼓の
所蔵記録、古記録類に演奏の記録、『楽人補
任』に奏者名がある他、狛近真著『教訓抄』

(二二三三)には羯鼓の楽人・奏法・楽譜・
声歌・口訣等が詳記されており、日本でも盛
行時には羯鼓が編成に加わっていた事実を如
実に知る事ができる。特に大規模な舞楽では
羯鼓が羯鼓の対となつて奏されたのである。

しかし儀式全般の衰頽期にあたる中世後期に
はこうした機会も失われ、文安二(一四四五)
年の演奏を最後に姿を消し、以来現代まで樂
器の伝存も皆無とされてきた。近世の雅楽復
興に際して羯鼓も復興が試みられたものの、
楽器への誤解から試みは失敗し、羯鼓のみが
忘れ去られたのである。

尚、現在は復元楽器を製作し終え、奏法等
を調査中である。二〇一四年三月、第一回東
洋音楽史研究国際シンポジウム「唐代音楽の
研究と再現」レクチャーコンサートにおいて
初めて羯鼓が合奏に加わり、現行雅楽の打物
類にはない、中音域の豊かな鼓声を響かせた
(演奏協力 伶楽舎)。

以上が論の概要であるが、本論は絵画・文
献を含めて八世紀から近現代に到る羯鼓関連
史料を網羅し、その内容を逐一検討する労作
である。その変遷を辿ると、今、当所に十二
世紀当時の羯鼓があるというのは、誠に不思
議な心持ちである。

(思文閣出版、二〇一六年三月、A4判14頁
定価二七〇〇円(税別))

雅楽の普及に努める

武蔵野楽器

創業は約40年前

雅楽の楽器や譜面など、雅楽関連の商品全
般を扱っているお店はとて少ない。そんな
お店の一つで東京の北区王子にある武蔵野樂
器のお店をお訪ねし、社長の元村信彦さん
にお話しを伺いました。

また武蔵野楽器の広告を「雅楽だより」発
行当初より掲載していただいています。

「雅楽だより」へ毎号の広告の掲載ありが
とうございます。広告を掲載していただい
てから10年余が経ちまして、一度、お店の紹介
をさせていただきたいと思っております。
今回やっと取材に伺わせていただきました。



武蔵野楽器 店内



武蔵野楽器 入口

○お店はいつ頃から始められたのですか。

☆雅楽の関連商品の製造・販売をしている会
社は、全国でも数少ないのではないかと思
います。

武蔵野楽器の創業は、昭和53(1978)年
です。それ以前は「ニッポ楽器」に在籍し
雅楽の普及、発展をといたこともあり「武蔵
野楽器」を立ち上げました。当初は足立区
の鹿浜でしたが、平成10(1998)年に王子
に移転し、現在に至っています。

雅楽教室を開催

平成7・8年(1995年頃)より、雅楽
がテレビなどでも取り上げられて、多くの
人に関心を持たれるようになりました。お
店にもいろいろの方が買いに来られるよ
うになりました。そして、雅楽を習いた
いという方も多くなりまして、シヨウル
ムに併設されたスペースで雅楽教室を開
きはじめてのが平成12(2000)年頃
からです。この教室は1回の受講料を
2500円として、その都度受講料を
いただくという方法で開いています。
月謝制でなく、参加する時だけ支払う
ことで気楽に参加いただいているよう
です。講師の方は伶楽舎の先生方にお
願ひしています。年一回、発表の機会
も設けています。

レンタルの楽器や装束も 多数用意

○レンタルの楽器も用意されているよう
です。

☆日常の生活の中では、雅楽の楽器に
触れる機会ほとんどありませんので、
雅楽の普及を考えると、なるべく多
くの人が、簡単に楽器に触れるよ
うに思ひまして、レンタルの楽器を
多数用意しています。

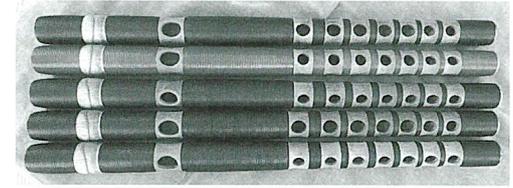
現在は、龍笛50管余、篳篥30管、笙
を20管用意しています。

管楽器の他に、打楽器(羯鼓、樂太鼓、
鉦鼓)などのレンタルもしていますし、
舞楽装束(陵王、納曾利、抜頭、人長
舞、襲装束(左舞用)など、そして
他に、高欄・地布・樂所幕も貸出が
ございます。楽器や装束のレン

タルをご要望の方は、ご連絡いただければと思います。雅楽の普及の一助にしたいだければと思っております。

指穴の小さい

龍笛



上から 標準的な龍笛、指穴の小さい龍笛、指穴と歌口の小さい龍笛、ピッチの高い龍笛、ピッチが高く、指穴の小さい龍笛

○楽器も色々と工夫されているのがあつたのです。笛も色々と工夫されているとか。

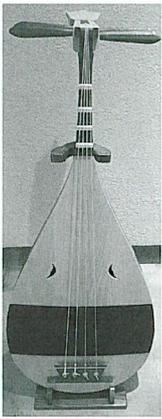
☆はい、龍笛は指穴が大きいので、指で塞いでも隙間が出来てしまう方が多いですよ。特に子供さんはそうですね。隙間が出来ると音が出ないので、指穴の小さな龍笛を作りました。併せて、歌口の小さいものも作りしました。これで音も出しやすいので、とても人気の笛になっています。

他にも洋楽とも合わせ易い様に音の高くした龍笛も作成しました。

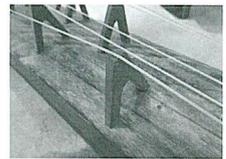
これも、普通の指穴のものと、指穴、歌口ともに小さくしたものを作っております。

ミニ和琴

また和琴は、楽箏よりも長くて、持ち運びが不便ということもありまして、練習用を兼ねて小さい和琴の希望がございました。そこ

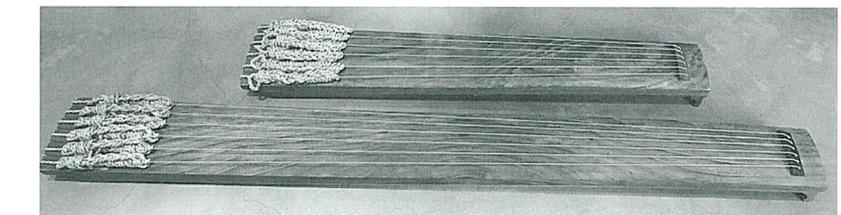


楽琵琶



和琴の倒れにくい琴柱

で、長さが3分の2ほどの、小さい和琴を作成しました。琴柱も和琴は紅葉の枝を使うのですが、なかなか手に入らなくなつたこともあり、特製の琴柱を使っています。これですと構造上琴柱が倒れにくくなつていきます。



上 ミニ和琴 長さ1m27cm 下 普通の和琴

○いろいろと工夫されているのです。お店には 箏のリードも多数並べられておりました。楽琵琶も四十五万円からと展示販売されています。その他、雅楽の関連の書籍や譜面などはほとんどの種類のものがあります。質問をいろいろと教えてもらえます。気軽に立ち寄られてはいかがでしょう。



ケースに並べられた箏の舌

夏〜秋までの主な雅楽演奏会など

大阪楽所第34回雅楽演奏会 (大阪)

7月2日(土)

昼の部午後2時 夜の部午後6時開演

3000円(チケットぴあ・劇場窓口)

国立文楽劇場(大阪)

管絃 平調音取 皇巖急 越殿楽残楽三返

講師演奏 平調音取 陪臚 舞楽 振鈴一節

二節 春庭花 延喜楽 長慶子

問合せ Tel.06-6214-8260

星祭り 師岡熊野神社 (神奈川)

7月3日(日) 午後7時

管絃 双調音取 賀殿急

舞楽 新鞆 胡飲酒 演奏 横浜雅楽会

問合せ Tel.045-531-0150

博雅会×トラロ会 雅楽北海道公演 vol.1 (北海道)

7月4日(月) 午後1時 2000円

札幌市教育文化会館

管絃 越殿楽他 朗詠 徳是

舞楽 遷城楽(右) 演奏 博雅会・トラロ会

問合せ Tel.080-24415-2347

近江神宮燃水祭 (滋賀)

7月7日(木) 午前11時

舞楽 賀殿急 出演 女人舞楽原笙会

問合せ Tel.0797-23-1886

東京楽所 第9回定期公演 (東京)

7月9日(土) 午後5時

S席5000円 A席4000円

東京オペラシティコンサートホール

管絃 志越調音取 春鶯囀 迦陵頻急

酒胡子 承和楽 仁和楽

主催 AMATI

問合せ Tel.03-3560-3010

萌雅会雅楽公演 vol.5 (石川)

7月10日(日) 午後2時

石川県立美術館ホール

管絃 盤渉調 越殿楽 他 朗詠 池冷

舞楽 迦陵頻 萬歳楽

演奏 萌雅会 ゲスト 大窪永夫師

問合せ Tel.090-2835-2888(ソヤマ)

「雅楽ゼミナール」多家と天王寺楽所 (大阪)

7月16日(土) 午後6時半

津村ホール 往復はがきで申し込み

講師 宮内庁式部職楽部楽長 多忠輝

司会 天王寺楽所雅亮会 小野貞龍

演目 採桑老

天王寺楽所雅亮会 朝日新聞主催

問合せ Tel.06-6641-0084

十二音会 第37回公演 (東京)

7月16日(土) 午後6時 全指定5000円

紀尾井ホール(大ホール) 舞楽 振鈴三節

納曾利 延喜楽 陵王 萬歳楽

問合せ Tel.03-3370-1913

春日権現験記の舞 (名古屋)

7月17日(日) 午後2時 名古屋能楽堂

舞楽 萬歳楽 賀殿 蘭陵王

演奏 南都楽所

夏祭 西宮神社 (兵庫)

7月20日(水) 午後7時半 8時半(2回)

舞楽 白浜 賀殿急 女人舞楽原笙会

問合せ Tel.0797-23-1886

中村仁美筆篋リサイタル 筆の風 no.6 (東京)

7月22日(金) 午後7時

前売3500円 当日4000円

東京オペラシティリサイタルホール
志越調子・胡飲酒序・破

伊左治直作曲 舞える笛吹き娘

山口恭子作曲 発光素

嶋津武仁作曲 生々流転

笠松泰洋作曲 三つの風土

演奏 中村仁美 石川高 八木千暁

問合せ Ⅸ03-6804-7490

文月会第20回温習会 (東京)

7月23日(土)午後2時半 赤坂区民センター

舞楽 振鈴一節 二節 萬歳楽 陪臚

演奏前に左方襲装束の着付け実演

問合せ Ⅸ090-1859-6962

星田妙見宮鎮座千二百年奉祝大祭 (大阪)

7月23日(土)午後7時半

星田神社(大阪府交野市星田)

管絃 賀殿急 朗詠 二星

舞楽 蘭陵王 演奏 なんば雅楽会

問合せ Ⅸ072-893-1212

難波宮フェスタ 2016 (大阪)

7月28日(木)午後1時

大阪歴史博物館アトリウム内

舞楽 胡蝶 陵王 出演 女人舞楽原笙会

問合せ Ⅸ0797-23-1886

あそび☆あーと体験ひろば (東京)

7月29日(金)午前10時半~12時半

国立オリピック記念青少年総合センター

主催 子どもと舞台芸術 出会いのフォーラム実行委員会 協力 伶楽舎

問合せ Ⅸ03-3351-2131

春日若宮おん祭 (東京)

チケットプレゼント有り
7月30日(土)午前11時 午後2時半

一等4600円 二等3700円

国立劇場大劇場

11時の部 遷幸の儀 献饌 奉幣 祝詞奏上

社伝神楽 東遊 田楽 振鈴三節 延喜楽

蘭陵王

2時半の部 細男 神楽式 和舞 萬歳楽

落躰 遷幸の儀 出演 春日古楽保存会

チケット Ⅸ0570-07-9900

宮田まゆみ 笙リサイタル (東京)

チケットプレゼント有り
7月30日(土)午後2時

現代の笙 現代音楽の古典と世界初演

11月12日(土)午後6時半

古譜の笙 近衛家 陽明文庫所蔵古譜による

「調子」全曲演奏

全自由席5000円 学生3000円

(2公演セット券 8000円)

MUSICASA(ムジカーザ・東京渋谷)

問合せ Ⅸ03-3560-3010

ラジオ「邦楽百番」

文化功労者・芝祐靖の世界 (仮題)

7月30日(土)午前11時(NHK FM)

再放送7月31日(日)午前5時(〃)

演目 芝祐靖作曲「寓話」「招杜羅紫苑」

「七夕の雅楽」

7月31日(日)午後2時

高岡市「雅楽の館」

管絃 越天楽(平調、盤渉調) 蘇莫者破

朗詠 二星 等 演奏 洋遊会

問合せ Ⅸ0766-64-0390

第62回 篝の舞楽 四天王寺 (大阪)

8月4日(木)午後7時

四天王寺内(場所未定)

舞楽 振鈴 迦陵頻 納曾利 賀殿 長慶子

演奏 天王寺楽所雅亮有志

問合せ Ⅸ06-6771-0066

子どものための雅楽コンサート

〜雅楽ってなあに〜 (東京)

8月6日(土)午後1時半 子ども(中学生以下)1000円 大人2000円

第一生命ホール

越天楽 越天楽今様 舞楽 陵王 芝祐靖作

曲・脚本 カラ坊風に乗る他 演奏 伶楽舎

問合せ Ⅸ03-5269-2011

雅楽の夕べ (宮城)

8月12日(金)午後6時半 大崎八幡宮

演目 三台塩 鶏徳 青葉の舞 萬代の舞

其駒 他 演奏 伶楽舎

問合せ Ⅸ022-234-3606

雅楽の夕に、一緒に雅楽を

〜東日本大震災復興祈念〜 (宮城)

8月13日(土)午後4時

大崎八幡宮(仙台)

演目 越天楽 五常楽 皇聲急 萬代の舞

浦安の舞 芝祐靖作曲 天麗人 喜楽の舞

演奏 伶楽舎

問合せ Ⅸ022-234-3606

中元万燈籠 春日大社 直会殿 (奈良)

8月14日(日)午後6時半ころ

舞楽 八仙 演奏 南都楽所

問合せ Ⅸ0742-22-7788

春日山盆灯会 (福岡)

8月15日(月)午後7時半

正行寺春日山雅楽御堂(福岡県春日市)

平調 皇聲急 越天楽 陪臚

演奏 筑紫楽所

問合せ Ⅸ092-596-8585

雅楽入門 (栃木)

8月20日(土)午後2時 一般1500円

高校生以下500円

小山市立文化センター 演奏 伶楽舎

問合せ Ⅸ0285-22-9552

月見の舞楽 平舞 番舞 (埼玉)

9月11日(日)午後6時 全席自由

一般2000円 学生1000円

こしがや能楽堂 演奏 東京楽所

主催 公益財団法人越谷市施設管理公社

問合せ Ⅸ048-985-1112

放生会舞楽 石清水八幡宮 (京都)

9月15日(木)午前8時 放生会

舞楽 胡蝶 演奏 平安雅楽会

問合せ Ⅸ075-981-3001

仲秋管絃祭 日枝神社 (東京)

9月15日(木)午後6時 3000円

演目 黄鐘調 音取 越殿楽 西王楽

神楽舞 他

問合せ Ⅸ03-3581-2471

伊勢神宮 観月会 (三重)

9月15日(木)午後6時頃より

外宮 勾玉池 舞楽 曲目未定

問合せ Ⅸ0596-24-1111

西宮神社観月祭 (兵庫)

9月15日(木)午後6時

場所 西宮神社本殿 舞楽 納曾利 他

女人舞楽原笙会

名月祭 下鴨神社 (京都)

9月15日(木)午後6時

舞楽 白拍子 迦陵頻 胡蝶

演奏 平安雅楽会

問合せ Ⅸ075-781-0010(下鴨神社)

観月祭 住吉大社 (大阪)

9月15日(木)午後7時から

演目 振鈴 登天楽 萬歳楽 長慶子

演奏 天王寺楽所雅亮有志

三溪園 観月会 (神奈川)

9月17日(土)午後6時15分

管絃 双調調子 賀殿急 神楽歌 千歳

舞楽 還城楽 仁和楽 新鞆鞆

演奏 横浜雅楽会

問合せ Tel 045-531-0150

観月演奏会 (大阪)

9月18日(日)午後3時

八幡神社(大阪府泉佐野市南中安松)

管絃 太食調 傾盃急 他

舞楽 萬歳楽 演奏 なんば雅楽会

問合せ Tel 080-2415-2347

雅楽月見の宴 (千葉)

9月19日(月)午後7時 一宮海岸

管絃 太食調 柳花苑 志越調 胡飲酒

迦陵頻 朗詠 池涼 演奏 玉前雅楽会

問合せ Tel 0475-42-2711

秋季神楽祭 伊勢神宮 内宮神苑 (三重)

9月21日(水)、22日(木)、23日(金)

各午前11時 舞楽 曲目未定

問合せ Tel 0596-24-1111 (福岡)

春日山秋季彼岸会

9月22日(木・祭日)10時

正行寺春日山雅楽御堂(福岡県春日市)

舞楽 曲目未定 演奏 筑紫紫所

問合せ Tel 092-596-8585

洋遊会定期公演 (富山)

9月24日(土)午後2時 1000円

高岡市ふくおか総合文化センター

舞楽 迦陵頻 陪臚 ほか

午前中、市内「雅楽の館」においてプレコンサート(曲目未定)

問合せ Tel 0766-64-0390

富岡八幡宮 秋季大祭 (神奈川)

9月25日(日)午後6時半

管絃 未定 舞楽 仁和楽 新鞆鞆

演奏 横浜雅楽会

問合せ Tel 045-531-0150

ひびき、あたらしー雅楽 (神奈川)

10月1日(土)午後3時 全指定4500円

神奈川県立音楽堂 管絃 越天楽残楽三返

他 舞楽 承和楽 還城楽 他

演奏 東京楽所 他

主催 神奈川県立音楽堂

問合せ Tel 0570-015-415

「観月の夕べ」 (奈良)

10月1日(土)午後6時 入場無料

大和高田市さざんかホール

管絃 曲目未定 舞楽 柳花苑 他

献茶 献花 琵琶演奏

演奏 葛城楽所雅遊会

舞楽 女性の舞楽原笙会

主催 大和高田市文化協会

問合せ Tel 0745-52-1475

今宮神社 秋の大祭 (京都)

10月8日(土)午後7時 宵宮祭 御神楽

9日(日)午前10時 東游

演奏 平安雅楽会

問合せ Tel 075-491-0082

下鴨神社 大國祭 (京都)

10月9日(日)午後1時45分

舞楽 陪臚 蘭陵王 納曾利

演奏 平安雅楽会

問合せ Tel 075-781-0010

森園史城米寿記念リサイタル (東京)

10月9日(日)セルリアンタワー能楽堂

新徳盛史 新作曲

演奏 森園史城 伶楽舎ほか

沙沙貴神社近江源氏祭 (滋賀)

10月9日(日)10時半 近江神宮拝殿

舞楽 曲目未定 女人舞楽原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

乃木神社 観月祭 (東京)

10月13日(木)午後6時

管絃 双調音取 美濃山 陵王 他

舞楽 春庭花 狛粹

演奏 道友会

問合せ Tel 03-3783-2371

元伊勢籠神社 真名井神社仮殿遷座祭 (京都)

10月16日(日)午前10時半

舞楽 胡蝶 演奏 平安雅楽会

日向大神宮 例大祭 (京都)

10月16日(日)外宮 午後2時

10月17日(月)内宮 午後2時

御神楽 人長舞 演奏 平安雅楽会

野宮神社 斎宮行列 (京都)

10月16日(日)午前10時半

舞楽 蘭陵王 演奏 平安雅楽会

問合せ Tel 0120-1192-40

「経供養」 四天王寺 (大阪)

10月22日(土)午後1時より 太子殿前庭

曲目 未定 演奏 天王寺楽所雅亮会有志

雅楽入門講座・ワークショップ (福岡)

10月23日(日)

福岡 住吉神社能楽堂 演奏 伶楽舎

主催(公財)福岡市文化芸術振興財団

問合せ Tel 092-263-6266

CDなど

CD 『こどものための 雅楽』

伶楽舎の音楽監督・芝祐靖作曲「ボン太と神

鳴りさま」「カラ坊風に乘る」ほか、「越天

楽今様」も収録。

商品番号VZCP-1188

定価3000円+税

申込み Fax 03-5269-2011

「雅楽だより」

購読・継続 申し込み方法

購読料一年(4回発行)二千円(送料込)

郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、

「口座番号」00140-5-614032

「加入者名」雅楽協議会

までお振込みください。ご記入頂いた住所に

「雅楽だより」を送らせて頂きます。

★読者チケットプレゼント★

☆中村仁美筆箒リサイタル 7月22日

東京オペラシティリサイタルホール

5名様ご招待

7月8日必着 招待券を送付

☆国立劇場大劇場 春日若宮おん祭

7月30日 各2名様ご招待

7月16日必着 招待券を送付

☆宮田まゆみ笙リサイタル 7月30日

午後2時、11月12日 午後6時半

ムジカーザ 各1名様ご招待

7月16日必着 招待券を送付

応募資格:「雅楽だより」定期購読者

応募方法:はがきに希望の演奏会、住所、氏名、

電話番号など必要事項を記入。

応募先・Tel 1888-0013

東京都西東京市向台町6-12-6鈴木木方

「雅楽だより」編集部

○訂正

45号、4頁4段7行目「約二米八十八糎」を

「約一米八十八糎」に訂正します。

「雅楽だより」第46号

2016(平成28)年7月1日

発行 雅楽協議会

編集 雅楽協議会「雅楽だより」編集担当

連絡先 Tel 1888-0013

東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木木方)

TEL・042-451-8898

FAX・042-451-8897

メール gagaku-yori@yahoo.co.jp

印刷 秀英堂紙工印刷株式会社

雅楽の楽器・譜面 ほか

(株) 武蔵野楽器

Tel 114-0003 東京都北区豊島1-5-6

電話 03-5902-7281

Fax 03-5902-7282

114-0003 東京都北区豊島1-5-6